令和６年度第３回士別市教育委員会会議録

１．日　時　　令和６年６月１０日（月）午後１時３０分～午後２時５０分

２．会　場　　士別市教育委員会　会議室

３．出席者

教育長	泉　山　浩　幸	生涯学習部長	三　上　正　洋
職務代理者	馬　場　千　晶	学校教育課長	岡　田　詔　彦
委　員	加　藤　洋　之	社会教育課長	千　葉　真奈美
委　員	山　田　敦　久	合宿の里・スポーツ推進課長	徳　竹　貴　之
委　員	多　田　千　鶴		

４．議　件（発言者、議事要旨及び議決事項）

１　教育長挨拶

本日はお忙しい中、お集まりいただき感謝する。

【参加した各種イベントについて、写真などを用いて説明】

・５月１９日のわんぱくフェスティバルでは、観客が約1,800人、運営を担うボランティアは小学生を含め５０人以上集まり、前半、後半に分かれて一生懸命活動していた。

・絵本ツアーでは、道の駅で全体会を行い、その後、参加者はそれぞれまち巡りを行いながら読み聞かせを楽しんでいた。今年は読み手になり参加した。

・５月下旬に子ども議会の任命式を行い、中学生７名を委員に任命した。今年は「チャレンジ応援事業」として少し形を変え、まちづくり塾の７期生の方が中心となり、子どもたちへ講義を行うなど、伴走者、支援に回っていただく。

・士別東高の参観日は、地域参観日として行っていて、保護者以外の方がたくさん来ていた。制服を着た子どもたちも保護者と４組、５組ぐらい来ていた。

・小学校陸上記録会、各小中学校の運動会・体育祭（士別南中、糸魚小・朝日中、士別小、士別南小、多寄小、上士別小・中学校）の内容について説明。

・学校訪問では、全部の学校を回った。学校の教育活動は「小さな夢でも大きな夢でも、夢に向かって頑張れる子供」ということを校長先生が話していた。私たち教育委員会職員も、毎日の仕事で、なかなか子供に夢をという意識が持ちづらいことがある。教育委員会の仕事は、子どもたちの目標実現の手助けをしている、こういうイメージが大事だという話をした。モチベーションという言葉があるが、それがとても大事で、仕事にも反映する。自分たちの仕事は子供たちや市民の夢に繋がっているという意識化が大切となる。

・中体連の全国大会縮小は、負担軽減ということだが、この後具体化されると思う。

・朝日で義務教育のあり方について説明会を行った。次の日、全道の小中高の先生方のzoom会議があったが、グループ分けで「義務教育学校グループ」があり、樹海小学校の校長や、比布、智恵文も参加。トマムは全校で12～13人なので朝日よりも少ない。この後、義務教育学校の話が進んだ時には、繋がりできたのでよかった。

以上、情報提供をさせていただいた。本日もよろしくお願いする。

2　議事について

○泉山教育長

議案第１４号「第１回士別市総合教育会議の開催」について説明を求める。

○三上部長

本日の総合教育会議については、大きく４点の協議事項としている。

１点目「士別市教育推進の重点」は私から、この重点の部分について簡単に説明させていただいた後、今年はこの重点に基づき、教育長が作成した「士別まなびフォーカス」の資料の説明をいただき、その後、各課から、主に４月の教育推進会議でお話した内容を説明する。

２点目「教科用図書の採択について」は、４月から２回会議を行い、調査委員が決定した。次回から場所を上川総合振興局から士別市に移して、教科書の確認などをしながら７月下旬まで行うことになる。そのスケジュールを含めて、岡田課長から説明する。

３点目「 小中学校の適正配置」は、朝日地区における義務教育のあり方について、すでに各新聞でご承知と思うが、進捗について説明する。温根別小学校に関する要望書は、去る５月７日、温根別小学校のＰＴＡ会長、温根別地区の小学校同窓会長、温根別地区の地域住民代表の方々から提出された。内容は、児童生徒数が少なくなっていくのが将来的にわかり、この後の子供たちのこと考えると、統廃合を検討した方がいいのではないかという議論が進んだものと承知している。今年の２月のＰＴＡ役員会から地域の中で話をされ、このことについて３月下旬に情報提供があった。その後、ＰＴＡだけではなく各自治会、地区全体に話をしたところ、令和７年度で温根別小学校を廃校として新たな学校に統廃合したいという意見がまとまり、要望書が提出された。本日は、この要望書についての議論ということではなく、地域から要望があったということのアナウンスをしていきたい。

総合教育会議では報道が入ると思うので、そこで初めて周知されるという形になる。この部分については、教育長と市長にも確認しており、今日オープンにした上で今後の議論に入り、統廃合について話し合いをしていくことになる。この議題については、小中学校適正配置計画を今年度に立てることになっているので、これと同時進行するような形で議論を重ねていきたいと思っている。

４点目「中学校の部活のあり方」については、現在の拠点校方式の制度では、平成３０年より前になくなった部活動については対象にはならない。もともと小学生のときに少年団で卓球をやってた子が中学１年生になり、２名からやりたいというニーズがあった。士中の卓球部は、平成３０年度より前に廃部になっており、南中はそれ以降も卓球部があったので部が存続ができていた。現行制度では、拠点校の対象にならないが、南中学校と士別中学校で話し合いをしながら、拠点校の対象にできるよう、この制度改正に至った。 先週にはその２人の生徒が南中学校で部活動に無事参加できているという報告を受けている。また、外部人材、外部指導者の部分は、基本的には１部活１名ということだが、バスケットボールでも、仕事で外部指導者が練習に行けない時には代わりの指導者が行けるような体制にしたいという要望があるので、複数体制の検討も行っていきたい。

この後の総合教育会議の中では詳しく話をし、市長と意見交換をしていただきたいと思っている。

○泉山教育長

この教育委員会会議が終わってからの、総合教育会議について部長から説明があった。

教育推進の重点、教科書採択、朝日地区・温根別小学校に関すること、そして部活動のことと、大きくこの４点について、市長を交えて説明、意見をいただくことになるがよろしいか。

○加藤委員

今まで総合教育会議では、教育委員会から市長の方に、何を推し進めたいかっていう話をしていた。今後、政策の中にもっと訴えていきたいものを提言する方向性をまとめて市長に話をしていたけれども、それは何もなしでいいのか。

○馬場代理

これまで市長との会議では、いろんな意見の中で、そこをプッシュして市長にもうちょっと訴えようとかがあったと思う。例えば、以前にがん教育とかについての新聞記事が出ていて、それを題材にという発言があったので、そこをプッシュしてお話しようかとういう打ち合わせ会議を前段に行い、総合教育会議に臨んでいた。

○加藤委員

この拠点校の関係で言うと、今は卓球部の話だったが、吹奏楽のこともある。 送り迎えの関連もある。統廃合の関係でも、スクールバスについても考えていかなければならない。バスも故障が多くなってきていたりするので、何とかしなければならない。なくなっても困るし。そんなことも踏まえながら、いろいろな面で多角的にやってかないとならない。習い事応援タクシーとかもやってたりするわけだから。交通網がなくなったら話にならない。

卓球の話だと、南中で指導するが、士中にも顧問を置くとなって、結局両方に先生がつくとなると学校側の負担も増える、という声も聞こえてきている。自分の学校の担当している先生がいてくれたら安心できる、何かあった時に対応できるかっていうのはわかるが、学校からすると、先生方は何でそっちで部活をやっているのに、１人置かなきゃならないのか。何のためにそれやってるのかっていう話は出てきてるようだ。

○山田委員

この部活動のあり方、適正配置の計画、温根別の要望書の件についても、教育委員会としてどういう方向性で市長に話をもっていこうとしてるのか。まだ提出されたという話だけになるのか。

○三上部長

適正配置について、朝日はこれまでの経過を説明する。温根別については、地域でもいち早く子供たちを大きい学校の方に統廃合したいっていう内容で要望書が提出されたという話をし、市長としても、今のところ地域の方から要望書が提出されたという認識だと思う。

実際に小学校の配置については、今後、教育委員会会議、教育委員会の中で議論し、市長に意見を出すべきだと思っている。まずは、その頭出しということで考えていただきたい。

○山田委員

これはＰＴＡ会長と同窓会長、地域住民の代表となっているが、温根別町民の総意ということか。

○三上部長

そのように聞いている。教育委員会に要望書が提出されたことを明らかにしないと、いつ議論されるんだろうという話になると思うので、教育長と市長に了承を得て今日議題として出すことになった。具体的にどうするかは、今後の話になると考えている。

○山田委員

この児童数の推移とかの資料は地域側が作成したものなのか。

○三上部長

この資料は校長が作成したものと把握している。

○馬場代理

生まれた子どもの数、幼稚園とか保育園の園児の数で、何年度に入学する児童の人数は把握できるので、温根別の方たちも感じての話なのではないかと思う。温根別地区としても人ごとではないって

いうか、何年か前から捉えていた学校関係者などがきっといたであろうし、このデータから見ても、そういうことならばとこの要望が上がってきたのかなと思う。

○三上部長

ここ３年間、温根別で子どもは生まれていない。今年は２人入学したが、令和７年は０人、８年が１人、９年も１人、その後０歳児まで０人が続く中で、苦渋の選択だと聞いている。

○加藤委員

多寄も保護者の方が考えて、中学校は統廃合するしかないっていうことになった。そのときも校長先生が先頭に立ってやってくれた。

○山田委員

小学校をなくしてほしいと言ってるのか。

○三上部長

私はそう感じてなくて、早く大きい学校の環境に慣らしたいというイメージをもっている。

○山田委員

温根別の場合は中学校がなく、小学校もなくしてしまうということで、地域において打撃がないという話ではなかったと思う。それでいて、校長先生が便宜を図って資料も作ってくれて、教育委員会に提出した形だが、なくしてほしいって言えば、どんどんなくすのかと思ってしまう。危険な感じがする。士別市全体の学校についても将来的にどうなるという話にもなる。その辺も考えていかなければならないのではないか。

○馬場代理

下士別小学校、武徳小学校、中多寄小学校が、平成２４年の春から一気に閉校というのがあって、その時は要望書があがったのか、こちら側から説明に行ったのか、それはわからないが、今は時代背景が全然違い、多寄中学校を閉校したときは、このまま行くと教科担任制なのに先生が置けなくなるとか子供たちが勉強面で不自由になることは困るので士別中学校に入れてほしい。そうすると、５教科それぞれの先生から指導も受けられ、部活動もたくさんの中から選べるというようなことがあって、子供たちのためを思ってという要望だったと思う。

○加藤委員

温根別小学校の今後を見越して統廃合をということだが、小学校はなくならない方がいいと思う。なくなった地区を見ると、学校があったときと比べたらコミュニティがなさなくなっている。地区が本当に寂しくなっってしまう。コミュニティが形成されてる部分があるから、むずかしいことではあるが、無くさない方向でいけるなら、無くさない方がいいと思う。

○馬場代理

何年か前に事務職員を配置できない、養護教諭を配置できない、教頭先生が教壇に立つみたいなときがあった。その時は、転校生が来たか入学児童があったかで、ちょっと持ち直してということがあった。何するにしても人数が不足してくると、それなりに大変になってくるのが現状なのかなと思う。

○加藤委員

制度上、子供が少なくなるとそれだけの配置がされないっていう状況だと、市として先生方を配置するためにお金を出せるのか、地区として子供たちを大規模校に行かせたい、という風に言われたらどうにもならない。朝日が学校を存続させたいっていう思いがあるのであれば、やっぱり訴えかけてた方がよいと思う。

○馬場代理

子供たちを大きな学校で少しでも早く慣れさせたいっていう説明があったという話を聞いた時に、

昔は小学校の卒業生が何人かいて複数で士別中学校に行っていたが、最近はたった１人の卒業生が１人で中学校に行くことがある。そうなると登校が難しくなり、今学校に行けていないとか。そういう心配もあり、早く大きな学校に慣れさせたいっていう要望なのかなと思う。それが全てではないとは思うが。

○泉山教育長

地域から学校をなくすということは、地域の灯というかコミュニティが今まで築けていたのが難しくなるということになる。私が経験した中では、賛成の人もいるが反対の人もいて、ある一定の理解を得て閉校になった、統合になったというのも経験している。

この５月に要望書の提出があったときに、教育委員会として、これまで温根別小学校をなくすという話はなかったが、地域の方々もこのまま小規模校で、もっと少なくなって事務職員がいなくなる、養護教員もいなくなる、教員もいなくなる、教頭もいなくなる。数年で、校長と教員が２人で３人体制っていうこともある。それも見込んで説明したと思う。適正配置で閉校を考えるということは、教育委員会が説明すること。それでも地域の方々が、校長を通して話し合いを進め続けていたんだと思う。それと令和７年度が１２０周年であることから、１２０周年行事に卒業生やＯＢの方も呼んでやりたいと。今、こういう風になるから、学校として、地域として区切りをつけたいと。そういう思いをひしひしと感じた。

要望書の最後にある「跡地利用については可能な限り地域の意向を反映していただきたい」というのは、教育委員会が決められることではなく市長部局と連携して行うが、地域の思いも十分噛みしめて受け取るっていう話もした。校長からは、もし早い時期で決まるのであれば、統合先の学校との交流事業や、スムーズに接続、連携ができるような支援というものを、教育委員会が中心となってやっていかなければならない。これだけ地域の方が苦渋の選択をして、子供ファーストで考えて、１２０周年も含めて区切りをつけるっていうことであり、応援できることはどんどん応援してく、子供のスムーズな接続とか、地域の灯を消さないような跡地利用の仕方とか、それは市長部局と連携しながらこれから考えていくっていう、そういった伴走者というか、支援者なんだなって、そういうつもりで話を伺った。

今の意見の中で、確かに心配な部分があるというのもあるが、地域がここまでやって要望書をもってきたっていうことは、それを尊重していくっていうスタンスで、市長に話をしていくべきなのかなって思っている。

○山田委員

ここに出す要望書という話だから、それ相応にきちんとしたものなんだろうとは思っている。本来、学校をなくすっていうことってなかなか厳しいものがあるが、地域としてなくしてくれっていうのは時代の流れなのかなっていう風に捉えるしかないのかもしれない。そこを含めて、将来性についても考えていかなけばならないし、全体として作り上げていく必要性はあると思う。

○泉山教育長

今でもＰＴＡ会長さんの言葉を忘れないが、新しい統合校に子供が行ったとしても、地域として地元に学校がなくても、送り迎えに「行ってらっしゃい」とか、そういうのを大事にしたいという言葉は、印象深かった。温根別地区は学校がなくなったら、地域が廃れちゃうというか、そういう傾向はあるかもしれないが、子供たちが帰って来れるというか、そういうイメージで地域作りを行っていただきたいと、教育委員会の立場として思う。

○加藤委員

義務教育のあり方と、温根別のことに関しては、前もって知ってれば、もうちょっと理解も含めな

がら話もできたかなと思う。

○馬場代理

１時間でこれだけの内容となると、なかなか難しいのではないか。

○泉山教育長

議題の４については、全国教育長会議で色々情報を得てきたが、国は、部活動の地域移行は土、日だけのことを言っている。働き方改革で、部活動のあり方ということで、週１日は休みにすると。７日間毎日やっていたが、それはやめようと。火曜日は１日休みにしよう、土日もどちらか休みにしようと、最大で４日間。そのうち１日と言っても、指導者負担があるから、なるべく地域の指導者に委ねてもらうというやり方を地域移行と文科省は言っている。ただ、土日だけどっちかと言っても難しいので、可能な限り月曜から金曜日の間も顔出せたらいいねと。地域、自治体によっては、全部やってしまうというところもある。あくまで文科省が言ってるのは、土日に外部指導者に委ねることが難しいところでも、 例えば、拠点校方式や合同チームは、地域移行ではないが、そういう取り組みも大きく考えたら、地域と一体となった教育活動に関係する、と言っている。地域移行の前段として、拠点校方式、合同部活の取組が必要となる。

去年は準備委員会だったが、このあと協議会を立ち上げる。拠点校方式も規約を改正し、部活動の外部指導者も１人から補助員を置けるように改めた。それも合わせて、 最初は週休日の中でやりたいと考えている。ただ、その場合に課題があって、今、学校では土曜か日曜日に部活動に携わると約2,600円が支給される。その道費と同レベルのお金を出せるかという問題がある。それから、地域移行になると受け皿は学校じゃなくスポーツセンターとかにしなければならないが、その受け皿の問題。また、指導者をどうするかという問題。そして、広域の地域が狭いところ、コンパクトなところはいいけれど、移動の手段をどうするか。

この４つについて、文科省は純粋には補助は行ってはいない。これに関係する事業を行えば、１０割負担とか８割負担とか３分の１負担とか予算をくれる。だから、頑張ってもらいたい。ただ、それをやって補助をもらっているところは、まだ１パーセントもない。国の７年度までに見通しを立てるっていうものに沿って士別市もやっているが、自治体によって、県によって、地域によっては、すごく格差があって、文科省もそこは課題と考えていて、なるべく予算措置はしたいが、今は市町村の単費に頼ってる部分があるという話だ。私は、地域移行したとしても、もし学校の先生で指導者になってもいいという方には、何とかこの道費でもらってる2,600円を使ってはいけないのかなと思っている。でも今は難しく、そのお金は市町村の単費で回さなければならない。

それともう１つ、この地域移行は教育委員会だけでなく、市長部局も一体となってやるように言っている。これを進めていく上では、教育委員会で協議会を立ち上げるが、市長部局も一体となってやるようにと。成功例を見ると、やはり市長部局も一体となって行っている自治体がほとんどで、市長にも後押ししていただければと思っている。

○馬場代理

この対応案のところに、対象校は士中と南中に限定とあるが、これは、卓球部の話に限定しているのか。ほかの部活に関しても対象は士中と南中だけということか。

○三上部長

今のところニーズがあったのが士中と南中だけだった。ただ、バスケットの例もあったけれども、ここはもう少しずつ直していこうと思っている。

○馬場代理

今の時点では士中と南中に限定しての考えだということか。

○加藤委員

学校側としては、それはそういう風には理解しているのか。

○三上部長

士中と南中にはそういう話をしてきている。

○加藤委員

上中と朝中に関しても、そういう子供たちがいたら受け入れはできるっていう話をしてあるわけではないのか。

○三上部長

それは今後その子供たちがいればの話になる。

○山田委員

対処的なことでしか応えられないってことか。

○三上部長

あとは、今の拠点校方式ではなくて、例えば野球とかはもうすでに合同チームという形で、上士別や朝日の方は士中に入ってやってるし、やれる例はあるので、何も道がないわけではない。

○加藤委員

団体競技だといいけれども、卓球は個人競技みたいなものだから。

○山田委員

教育長がおっしゃるウェルビーイングってどういう意味なのって考えた時に、この部活の部分そのものもそうだし、学校の問題でも、みんながここに生きててよかったなと思えるような、そういうシステムっていうことを、具現するものを見せていかなきゃいけないと思うわけだから、せっかくこの「まなびフォーカス」っていうことでやっていくのであれば、ＰＲはきちんとしなきゃいけないと思う。現実問題はそうではあるかもしれないが、少なくともそういう機会やチャンスがあれば、発信はちゃんとやっていかないとならないと思う。

○泉山教育長

議案第１４号はこれでよろしいか。

（全員了承）

○泉山教育長

議案第１５号「士別市青少年指導センター指導員の選任」について説明を求める。

○千葉課長

令和６年度士別市青少年指導センター指導員の件について、士別小学校から５名の保護者の方を委員として名簿をいただいたのでお諮りしたい。

○泉山教育長

議案第１５号はよろしいか。

（全員了承）

○泉山教育長

議案第１６号「教科用図書の採択スケジュール」について説明を求める。

○岡田課長

中学校で使用する教科用図書について、５ページの別紙スケジュールにより、今年度は中学校の教科用図書の採択をする。４月９日に第１回教科用図書採択教育委員会協議会を開催、６月３日に第２回目の協議会を開催しており、各市町村から調査委員を選出していただき、調査委員会を６月２４日に第１回目、７月１日、２日の２日間の合計３日間で調査委員会としての意見をまとめ、第３回目の

協議会で決定するという予定。８月中には本市教育委員会として、令和７年度から使用する教科用図書を採択したいと考えている。

○泉山教育長

教科書採択については、調査員が７０名ぐらいで、その調査員が教科書の良さとか特徴とかを集まって協議し、第３回目の教育委員会協議会の中で決定していくという段取りになっている。来年度からの教科書展示を今月下旬から来月中旬までの２週間ぐらい、図書館でやっている。もし時間があれば見ていただければと思う。

○泉山教育長

議案第１６号は、このとおり進めてよろしいか。

（全員了承）

３　その他

◇令和６年第２回定例会の一般質問について

◇当面する今後の日程について

三上部長説明。

午後２時５０分、会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

署　名　者　泉山浩章

会議録調整者　岡田詔彦